

千葉県 36 市における青年館の現状 －公的ストック空間の再生課題 その 1－

日大生産工（学部）
日大生産工（院）
日大生産工・職員（非常勤嘱託）
日大生産工

○甲斐 有美子
加藤 尚裕
阿部 紀子
広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

昭和 40 年ごろから青年館は青少年の健全な育成を目的とし、教育・娯楽・交流などの場として設置されてきた。しかし、情報化や青少年にとって豪華で娯楽性の高い余暇施設の出現、大学や各種学校に属しての学習機会の増加などにより青年館の利用は減少してきた。そして青年館の本来の目的である青少年の育成・交流の場から地域住民の集会所の色彩を強くするようになり、徐々に青年館としての役目を終えて廃止^{*1}された。それによって数多くのストック空間が発生し、現在その活用方法が検討されている。本研究では、千葉県のストック空間^{*2}となった青年館の事例の所有・利用・管理・運営等の実態から、青年館を転用^{*3}する際の課題を明らかにする。

1.2 研究の方法

研究を下記の順序で行う。

- ① 事前調査として千葉県 36 市の青年館数をインターネット・電話帳にて検索し青年館数を把握する。インターネット調査では Google を使用し、検索ワードは「〇〇市 青年館」を記入し、3 ページずつ閲覧する。（検索結果は 1 ページにつき 10 件表示される）
- ② 千葉県 36 市の各市役所の青年館担当部署に①で調べた青年館数を確認するために電話によるヒアリング調査をする。
- ③ ②の調査精度を高める為に千葉県 36 市の市役所にアンケート調査を行い、過去 10 年内で最多の青年館数、現在の青年館数及び転用事例を把握し、県内における青年館のストック空間発生状況及び再活用状況を考察する。

- ④ 以上の調査で得られた情報より 36 市の中から、過去 10 年内の青年館数が最多の市を 2 市選定し、市役所の青年館担当部署に直接ヒアリングを行い青年館の現状を把握する。調査結果から青年館の所有、管理、運営、利用、廃止、について考察する。

調査期間 2009 年 6 月～9 月

2. 千葉県 36 市における青年館のストック空間事例把握

表 1 総合調査結果

総合調査結果								
NO	市	過去10年以内最多の青年館	現存青年館	廃止	解体	譲渡	転用	ストック空間
1	旭市	43	0	43	1	42	0	42
2	我孫子市	66	0	66	0	0	0	66
3	いすみ市	38	0	38	不明	不明	不明	不明
4	市川市	13	0	13	0	0	13	0
5	市原市	0	0	-	-	-	-	0
6	印西市	25	14	11	0	11	0	11
7	浦安市	0	0	0	-	-	-	0
8	柏市	8	0	8	3	5	0	5
9	勝浦市	16	14	2	1	1	0	1
10	香取市	0	0	-	-	-	-	0
11	鎌ヶ谷市	1	0	1	0	0	0	1
12	鴨川市	25	0	25	不明	不明	不明	不明
13	木更津市	3	3	0	0	3	0	不明
14	君津市	67	0	67	0	67	0	67
15	佐倉市	27	13	14	14	0	0	0
16	山武市	19	0	19	0	19	0	19
17	白井市	0	0	-	-	-	-	0
18	匝瑳市	13	0	13	0	13	0	13
19	袖ヶ浦市	24	0	24	2	22	0	22
20	館山市	40	0	40	2	38	0	38
21	千葉市	40	0	40	6	34	0	34
22	銚子市	95	95	4	3	1	0	1
23	東金市	15	0	15	0	15	0	15
24	富里市	21	3	18	0	0	18	0
25	流山市	0	0	-	-	-	-	0
26	習志野市	8	1	7	2	3	2	3
27	成田市	22	18	4	4	0	0	0
28	野田市	35	8	27	27	0	0	0
29	富津市	29	0	29	4	24	25	0
30	船橋市	1	1	0	-	-	-	0
31	松戸市	3	3	2	0	1	1	1
32	南房総市	39	0	39	不明	不明	不明	不明
33	茂原市	51	6	45	1	44	0	44
34	八街市	5	2	3	2	1	2	1
35	八千代市	7	4	3	3	0	0	0
36	四街道市	10	0	10	4	6	6	0
合計	36市	809	185	630	79	350	67	384

The Present Condition of Youth Recreation Centers in Chiba Prefecture 36 city
-Reuse Problem of the Public Stock Space part1-
Yumiko KAI,Takahiro KATO,
Noriko ABE and Naoyuki HIROTA

電話ヒアリング調査・アンケート調査結果を集計し総合調査結果を表1に示す。アンケート調査(回答率83%)を優先的に抽出し、電話調査結果(回答率78%)を補足とする。

2.1 千葉県の青年館のストック空間件数とその特徴

千葉県における青年館の廃止状況を図1に、千葉県の10年内最多の青年館とストック空間を比較したものを図2に示す。

総合調査結果より千葉県36市において過去10年内で青年館を設置していた市は36市中31市であり、青年館の総数は、809館である。

図1より千葉県36市全体で青年館としての機能を廃止されたものは809館中630館(78%)あり、解体事例と転用事例を除くと18市(50%)で384館(47%)のストック空間が発生している。

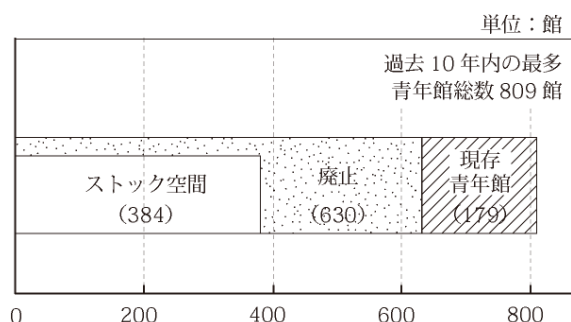


図1 千葉県における青年館の廃止状況

図2より過去10年内の最多の青年館数全館がストック空間となっている市は君津市、我孫子市、山武市、東金市、匝瑳市の5市である。また、旭市、柏市、袖ヶ浦市、館山市、千葉市、八街市、の6市は老朽化などにより解体された青年館を除くと、全館ストック空間となっている。つまり全館ストック空間となっているのは、青年館が存在していた31市中11市(35%)である。またストック空間が発生している18市中では11市(61%)が全館ストック空間となっている。

このように青年館は需要が極めて少なくなっていることが見受けられる。青年館は膨大なストック空間であり再活用されるべき施設であるといえる。

2.2 千葉県の青年館のストック空間再活用状況

廃止された青年館が多い順に各市の譲渡・転用・解体を図3に示す。

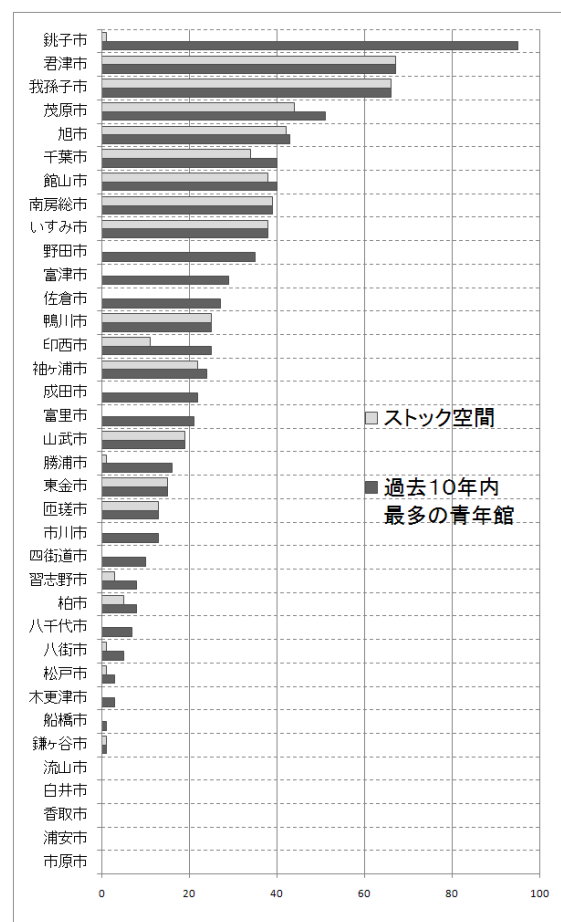


図2 過去10年内の最多の青年館数とストック空間となった青年館数

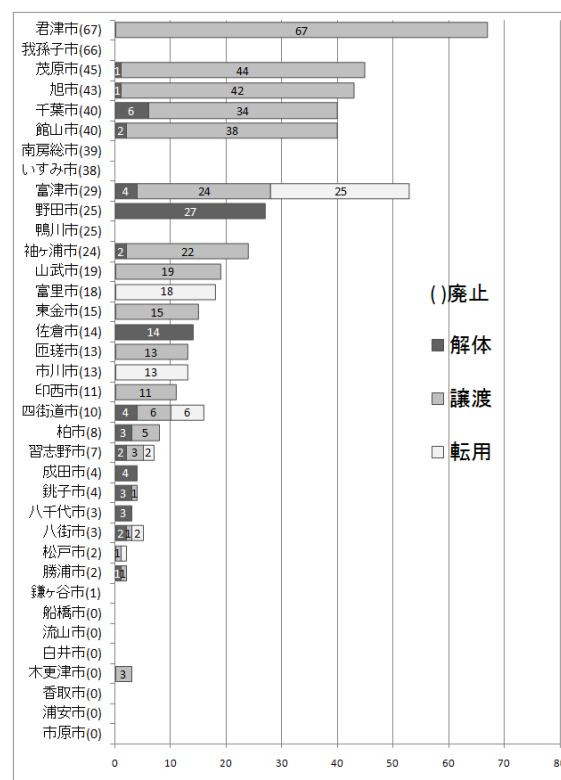


図3 譲渡・転用・解体の青年館数

<譲渡>

図3より千葉県36市の中で譲渡がもっとも多くみられた市は君津市(67館)であり、次いで茂原市(44館)、旭市(42館)、館山市(38館)、千葉市(34館)であった。これは各市の自治会、町内会に譲渡されたものである。指定管理者制度導入によって市で管理することが難しくなったため、または、町内会や自治会の集会所として需要があったため譲渡されたものとみられる。

<転用>

図3より転用が最も多くみられた市は富津市(25館)、次いで富里市(18館)、市川市(13館)である。転用は7市で67館(17%)しかなくない。このことから、青年館は膨大なストック空間であるにもかかわらず再活用されている事例が少ないことがわかる。

<解体>

図3より廃止された青年館をすべて解体した市は野田市(27館)、佐倉市(14館)、成田市(4館)、八千代市(3館)であった。青年館は老朽化が進んだ建物が多いため、これらの市では引き取り手が拒否し譲渡することができない理由などにより、解体を余儀なくされたものとみられる。

本研究では廃止事例の内訳は解体・譲渡・転用の事例を指すが、例外として、市によっては譲渡後に転用(富津市、四街道市)、解体後に建て直し(この事例を転用と回答する事例:八街市)、廃止後手つかず(我孫子市、鎌ヶ谷)という経緯をもつ事例がみられる。

3. 銚子市と我孫子市における青年館の実態と青年館のストック空間再活用状況

実態調査結果の概要を表2に示す。

過去10年内の最多の青年館数が一番多くみられた市は銚子市(95館)、君津市(67館)であるが、君津市は調査協力が得られなかったため、その次に多かった我孫子市(66館)を調査対象とする。

3.1 譲渡による所有機関への現状

銚子市では、市有地に県の助成金と市の予算で設置した市の青年館と町内会が公有地に市の助成金と町内会が市の助成金と町内会の予算で設置した町の青年館の2種がある。町の青年館

の土地の所有機関は県、市、町と様々である。これは改修後譲渡された事例である。譲渡事例が少ないのは青年館の老朽化が激しいため銚子市では改修しなければ町内会が受け取りを拒否するため、譲渡の際にお金がかかることが原因している。

我孫子市では、青年館は市により設置されたが、そのすべての青年館を譲渡したため、現在は全館自治会が所有している。全館譲渡された理由としては、市の管理では、使用時間や届け出の手間が地域の需要に合わなくなったこと、以前から自治会に管理を委託していたため譲渡しやすいこと等がある。

表2 実態調査結果

		銚子市		我孫子市
		市	町	市
青年館概要	過去10年内の最多の青年館数	43	55	32
	現在の青年館数	39	56	11
	青年館の解体数	3	0	6
	青年館の譲渡数	1	0	32
	青年館の転用数	39	55	26
	青年館のストック数	0	0	0
名称	青年館の廃止数	43	55	32
	集会所(旧青年館)	0	0	16
	青年館(集会所として利用される)	39	56	11
利用	青年館の利用主体	町内会	町内会	自治会
	青年館の利用目的	集会、子供会	集会、子供会	自治集会
	利用頻度	不明	不明	不明
管理	管理主体	町内会	町内会	自治会
所有	青年館の所有機関	市	町内会	自治会
	土地の所有機関	市	県・市・町	市
資金	青年館設置資金	県の助成金・市市の助成金・町市		

3.2 管理と利用状況の関係

銚子市では、市・町両青年館とも町内会が管理利用をしている。利用目的は主に集会や子供会などの地域活動である。市の青年館に関しては町に管理を委託していたが、指定管理者制度が導入され管理を町に委託することができなくなり混乱が起きた。このため青年館に関しては指定管理者制度をなくし、市と市の青年館を利用している町内会で協定を結んでいる。協定の内容は、町内会が市の青年館を優先的に使用することを認め、町内会が管理するものとしている。

我孫子市では譲渡前から青年館の管理をすべて自治会に委託しており、譲渡後も自治会が管理、利用を行っている。利用目的は自治会の集会所として利用しており地域活動の場である。

両市とも青年館設置当初より、町内会が管理しており、青年館の本来の利用目的にあった事

業が市により行われることなく、地域集会所としての利用が主だったことがうかがえる。

3.3 転用と施設名称、利用状況の関係

銚子市では全青年館が、当初の利用目的を終え、集会所として利用されているため、すべて転用事例といえる。しかし、全館青年館という名称を変更していない。また、平成元年から平成15年にかけて青年館という名称の集会所利用目的の施設を町に18館設置している。一般的に青年館の設置は昭和60年くらいに終了していることと比べると銚子市は特殊な例であるといえる。

我孫子市では市により32館の青年館が設置されたが、譲渡後26館(81%)転用され6館は建て直し、自治会の集会所として転用されている。施設名称は、16館(50%)が集会所(11館)、自治会館(4館)、公民館(1館)へ名称変更を行っている。変更を行った理由は自治会の方向性として、自治会に密接な施設にしたいという要望があったこと等が挙げられる。また、解体された事例のうち、1館のみ自治集会所としての利用目的にも関わらず青年館という名称で新設された事例がある。

両市とも集会所への一律の転用が行われている。この要因として、青年館設置条例において利用方法は青年の社会教育が主だが、地域の集会所としての使用を認めていることから青年館は集会所に転用しやすく改修工事の必要性が低い。また、青年館担当部署が青年館の使用頻度と集会所以外の地域のニーズを把握できておらず、多様な転用方法の検討不足。さらに、青年館は町内会、自治会が管理しておりその管理者へ譲渡することは、手続き等が容易であることが考えられる。

また、転用しても利用目的に合った施設名称へと変更しない事例が目立つ。これは、手間のかかる手続きを避けていることや青年館の設置目的を集会所であると誤認していることが要因として考えられる。

3.4 解体事例

銚子市は市の青年館を3館老朽化のため解体している。

我孫子市は6館を老朽化のため解体している。老朽化のため解体された6館の土地に新たに自

治集会所を建設した。

4. まとめ

千葉県における青年館の再活用状況として次のことが明らかになった。

1. 過去10年館に存在した青年館は809館抽出できる。
2. 当初の青年館数の役割を終えている廃止事例は630館で78%を占める。
3. 転用事例は、67館で8%である。
4. スtock空間は384館(47%)発生している。
5. 譲渡は350館(43%)、解体は79館(10%)の事例が抽出できる。

銚子市、我孫子市における青年館の現状として次のことが明らかとなった。

1. 千葉県全体では低かった転用率が銚子では100%、我孫子では81%と非常に高い。
2. 集会所への一律の転用が行われ、改修工事が行われた事例はみられない。
3. 転用しても利用目的に合った施設名称へと変更しない例は銚子市全館、我孫子市11館みられる。

【注】

*1 本研究では廃止とは(解体・譲渡・転用)のことを指す。

*2 Stock空間は廃止された青年館から解体された青年館を差し引いたものをStock空間とする。

*3 本研究では、青年館が青少年の社会教育という当初の利用目的を終え、異なる利用方法がなされている場合を転用事例として扱う。

【参考文献】

- 1) 河野通祐・浅野平八、青年の家・少年自然の家、井上書院、(1975)、pp. 12-37
- 2) 浅野平八、地域集会施設の計画と設計、理工学社、(1995)
- 3) 加賀谷志保、資源循環型社会に向けた公的Stock空間の活用方法 ―千葉県33市を対象として―、日本大学生産工学部学内学術講演会、pp217-220、(2006)
- 4) 加賀谷志保、公的Stock空間の活用実態にみる空間資源の循環要件、日本建築学会技術報告集 第13巻 第26号、pp725-729、(2007)